

出張報告届

令和6年 11 月 1 日

吹田市議会議長様

会派名 立憲民主党

代表者氏名 西岡 友和

出張者氏名 西岡 友和

下記のとおり出張したので届け出ます。

記

出張先	東京都新宿区西新宿7丁目21-3 リファレンス西新宿大京ビル
期間	令和6年10月31日から 令和6年11月1日まで 2日間
出張の成果	別紙のとおり
備考	地方議員研究会 研修受講



令和6年11月1日

西岡 友和

地方議会における議会質問は、議員が地域住民を代表し、行政に政策提言や問題提起を行う場である。この制度は民主主義における重要な要素であり、行政の説明責任を追求し、政策の改善を図る上で極めて意義深い。しかし、その実効性には課題も多い。

本講義においては、議会質問の意義を再確認し、その実効性を高めるための課題と方策を詳細に学び、その成果を論ずる。

1. 議会質問の意義

議会質問は、行政の説明責任を追求し、行政が行う政策や施策の透明性を高める手段となる。議員は質問を通じて、行政が行う事業の根拠や進捗、結果について説明を求め、市民に対して情報を開示する役割を果たしている。たとえば、大規模なインフラ整備事業や公共サービスの再編について議会質問を通じて透明性が確保されることで、市民の理解と納得を得ることが可能となる。つまり、公の場において明らかにしておく事や、今後または現在の課題について明確に示す事となる。

2. 政策の監視と改善

地方議会は行政に対する監視機関であり、議会質問はその中心的な手段である。議員は行政の政策や施策の実行状況を評価し、問題点を指摘することによって行政の政策を改善に導く役割を担う。これにより、行政が一方的に施策を進めることを防ぎ、市民の利益に資する政策が展開される。さらに、市民が抱える不満や要望を行政に届けるための重要な手段でもある。議員は地域住民を代表して質問を行い、行政に対して具体的な改善を求めることができる。このようなプロセスを通じて、議会質問は住民の意思を行政に反映させる媒介となる。

3. 議会質問の課題

議会質問には、実効性が限定的であり、いわゆる「聞くだけ」に終わらざるを得ない場合がある。行政の回答が形式的に終始する場合、質問が具体的な政策改善に結びつかないことが多い。特に、「調査、研究する」という回答が繰り返される場合、議員が求める結果が得られない傾向にある。むしろ、言い換えれば「一応は意見として聞いておきますよ」という事だ。

4. 時間的制約と内容の質

地方議会では、議会質問の時間が限られているため、議論が十分に尽くされない場合が多い。また、議員の質問が事前通告制である場合、行政側があらかじめ準備した回答をそのまま提示するだけで終わるケースにおいては、単なる「読み合わせ」となる場合が多い。このような状況では、質問が双方向の対話ではなく、形式的な応答にとどまる危険性がある。

5. 市民との乖離

議会質問が専門用語や抽象的な議論に終始すると、市民がその内容を理解することが難しくなる。結果として、議会活動が市民から乖離し、議会の意義が低下する可能性がある。

さらに市民の皆様が、議会に対する無関心、「どうせ意味のない議論だ」という具合に思われては、地方自治の根幹にかかわる市民との信頼が失われることになりかねない。

6. 実効性を高めるために

議会質問の実効性を高めるためには、市民がその意義を理解し、議会活動に関心を持つことが重要である。そのためには、議会質問の内容を分かりやすく伝える努力が求められる。たとえば、議会質問のライブ配信や簡潔な要約記事の作成、さらに市民から質問テーマを募集する仕組みを導入することが考えられる。

議員側は質問内容を戦略的に市民が感心を持っている項目を選定し、行政に具体的な提案や改善案を提示することが求められる。例えば、地域住民が日常的に直面する問題に焦点を当てた質問を行うことで、行政の具体的な対応を引き出しやすくなる。

7. 質問手法

議会質問の実効性を高めるためには、質問手法を多様化する必要がある。口頭質問だけでなく、書面による質問やオンラインを活用した質疑応答を導入することで、議会質問がより柔軟かつ効果的になる可能性がある。

また、行政と議員が建設的な対話を行うことも重要である。批判のみに終始するのではなく、協働を意識した議論を行うことで、議会質問を政策改善の手段として効果的に機能させることが可能となる。

8. 成功と失敗事例

ある自治体では、議会質問を契機に公共交通の改善が実現した事例がある。このケースでは、議員が住民の意見を事前に収集し、ニーズに基づく一時情報として、具体的なデータを基に質問を行った結果、行政としても対応せざるを得ず、新たな路線の導入が実現した。

一方、質問内容が抽象的である場合、言わば「質問の為の質問」では行政が具体的な対

応を取る事は無い。このような場合、議員の質問準備不足や、行政との十分な議論が行われなかったことが原因と考えられる。

9. 結論

地方議会における議会質問は、市民の声を行政に届け、政策改善を促す重要な手段である。しかし、実効性を高めるためには、議員が質問の質を高め、市民との関係性を深める努力が必要である。また、行政との建設的な対話を通じて、「行政性悪説」に立つ、批判だけの質問でなく、政策改善を起点とすることが求められる。このような取り組みを通じて、議会質問が地方自治の発展に寄与する効果的な手段となることが期待される。

これらの項目は吹田市議会においても同様の問題が指摘されるだろう。自身も含め、議会質問と、その実効性については議会としてまた、議員として取り組むべき課題である。

以上